

2018年6月6日

2018年度 九州・山口地区の新入社員意識調査アンケート結果 ～ 残業はいやだが、満足な給与も ～

当社の子会社である NCB リサーチ&コンサルティング（社長 光富 彰）は、本日、「2018年度九州・山口地区の新入社員意識調査アンケート結果」を公表しましたので、お知らせします。

詳細は、別紙をご参照ください。

以 上

2018年6月6日

各位

NCBリサーチ&コンサルティング

2018年度 九州・山口地区の新入社員意識調査アンケート結果 ～ 残業はいやだが、満足な給与も ～

西日本フィナンシャルホールディングス（社長 谷川 浩道）の子会社であるNCBリサーチ&コンサルティング（社長 光富 彰）は、毎年新入社員を対象とする公開セミナーおよび企業内研修を実施しています。本年度のセミナーおよび研修に参加いただいた、九州・山口地区の新入社員を対象とした意識調査アンケートの結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

【 アンケート結果概要 】

今回のアンケートでは、給料と残業に対する考え方では、「給料は少なくても、残業がない方がよい」と答えた人が6年連続で増加しており、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を重視する傾向がますます強まっています。その一方で、会社に求めるものとして「満足な給与」の増加が目立っており、雇用情勢の好転もあり、賃金への関心の高まりも感じられました。

1. 就職活動は「とても大変だった」が17.4%、「大変だった」が54.0%、「思っていたほど大変ではなかった」が25.6%、「その他」が3.0%という結果でした。
2. 就職先を決める時に重視したことは、「会社の雰囲気・イメージ」が45.9%で最も多く、次いで「業種・事業内容」の39.9%、「仕事にやりがいがある」の35.2%という結果でした。
3. 「定年まで同じ会社で働きたい」は38.8%で過去最低となる一方、「自分に向かなければ転職したい」は21.2%で過去最高となりました。
4. 働く目的は、「生活の安定」が71.4%で最も多く、次いで「お金が稼げる」の53.5%、「自己成長」の50.3%という結果でした。

詳細は添付の資料をご参照下さい。

【お問い合わせ先】

㈱NCBリサーチ&コンサルティング 調査部 担当：原
〒812-0027 福岡市博多区下川端町2番1号 博多座・西銀ビル13階
電話：092-282-2662

調査概要

1. 調査の目的

- 職業等に関する新入社員の意識状況を調査し、傾向を把握すること

2. 調査期間

- 2018年3月17日～4月19日

3. 調査対象

- 2018年春の新入社員で、当社の新入社員公開セミナーおよび企業内研修の参加者

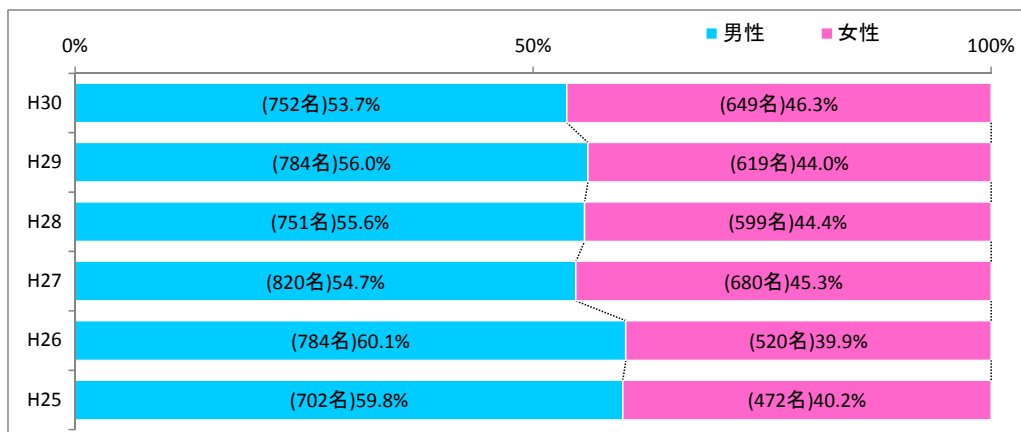
対象：1,403名（310社） 回収：1,401名 回収率：99.9%

開催地

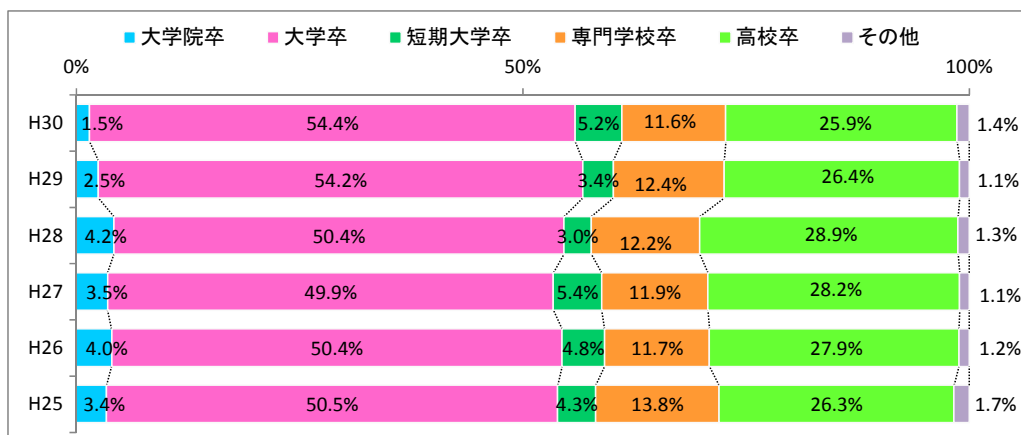
公開セミナー（23コース）：福岡市、北九州市、久留米市、飯塚市、長崎市、熊本市、宮崎市、大分市

企業内研修（10コース）：福岡市、朝倉市、鹿島市、別府市、下関市

性別



最終学歴



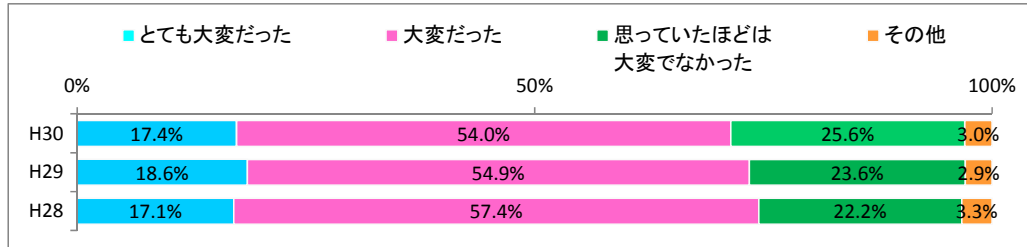
4. 調査方法

- アンケート用紙の配布・回収（新入社員公開セミナー・企業内研修実施時）

【アンケート結果】

1. 就職活動は怎么样了か（1つ選択）

全体では「とても大変だった」が17.4%、「大変だった」が54.0%、「思っていたほど大変ではなかった」が25.6%、「その他」が3.0%という結果であった。

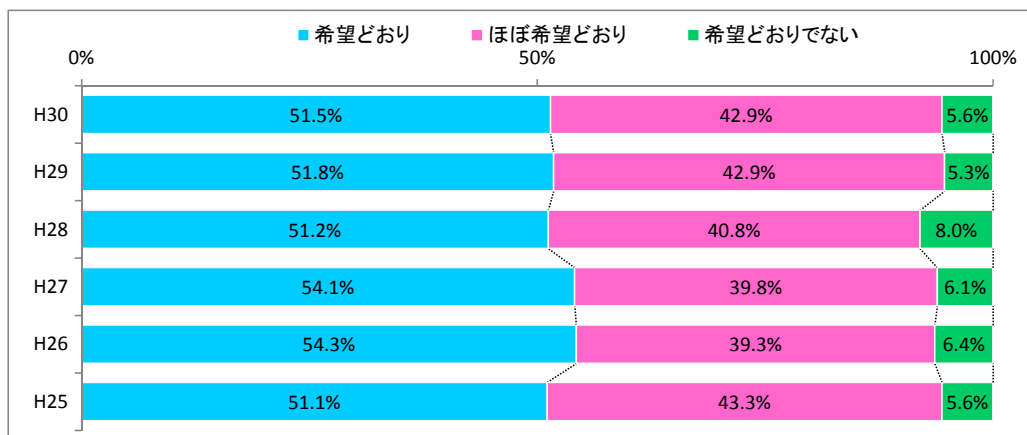


【コメント】

売り手市場を反映して「思っていたほど大変ではなかった」がやや増加したが、「とても大変だった」、「大変だった」の合計は依然として70%を超えている。雇用情勢が好転したからといって、就職活動の大変さが緩和されるわけではないようである。

2. 希望している会社に就職できましたか（1つ選択）

全体では「希望どおり」が51.5%、「ほぼ希望どおり」が42.9%で、あわせて94.4%という結果であった。昨年との比較では、「希望どおり」は0.3ポイント減少、「希望どおりでない」は0.3ポイント増加した。

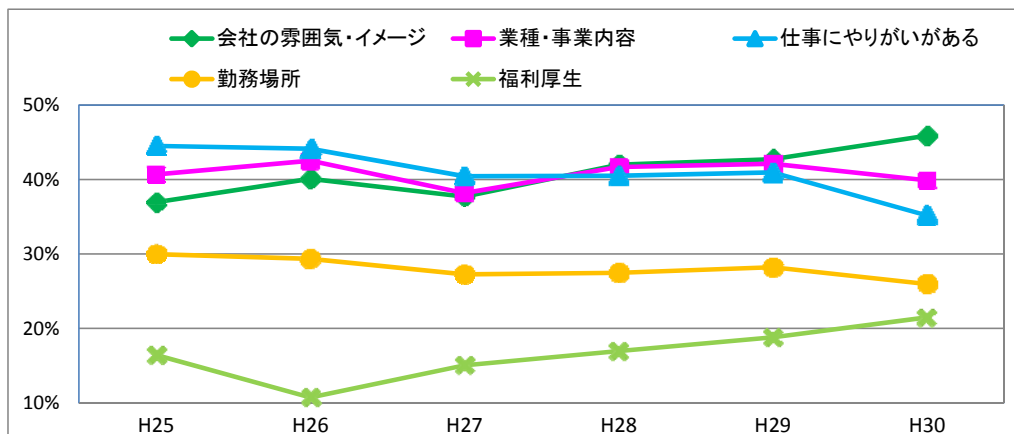


【コメント】

「希望どおり」と「ほぼ希望どおり」の合計が昨年より若干減少したとはいえ依然90%を超えており、就職活動自体は大変と感じたものの、売り手市場でもあり就職先には満足している様子が見られる。

3. 就職先を決める時、重視したものは何ですか（3つまで選択）

全体では「会社の雰囲気・イメージ」が45.9%で最も多く、次いで「業種・事業内容」の39.9%、「仕事にやりがいがある」の35.2%という結果であった。昨年との比較では、「会社の雰囲気・イメージ」は3.1ポイント増加、「仕事にやりがいがある」は5.8ポイント減少した。

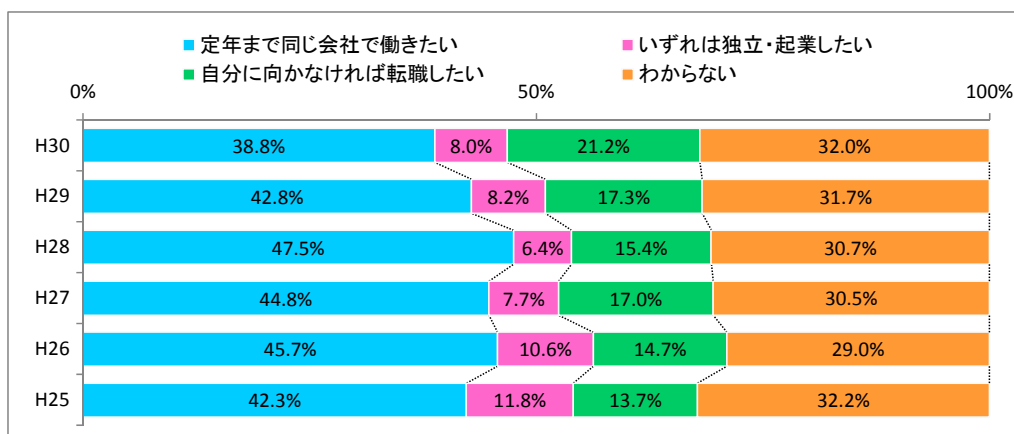


【コメント】

「業種・事業内容」および「仕事にやりがいがある」が減少する一方、「会社の雰囲気・イメージ」や「福利厚生」が増加している。昨今のブラック企業問題や雇用情勢の好転が影響を与えている可能性も考えられる。

4. 就職した会社で定年まで働きたいと思いますか（1つ選択）

全体では「定年まで同じ会社で働きたい」が38.8%で最も多く、次いで「わからない」の32.0%、「自分に向かなければ転職したい」の21.2%、「いずれは独立・起業したい」の8.0%という結果であった。昨年との比較では、「定年まで同じ会社で働きたい」が4.0ポイント減少、「自分に向かなければ転職したい」が3.9ポイント増加した。

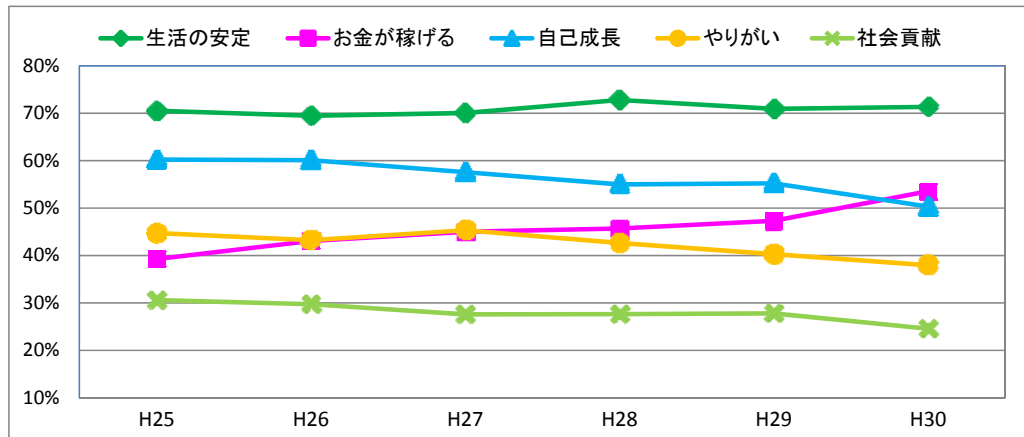


【コメント】

雇用情勢の好転を受け、「定年まで同じ会社で働きたい」が過去最低となる一方、「自分に向かなければ転職したい」が21.2%と大きく増加し、過去最高を更新した。

5. あなたにとって働く目的は何ですか（3つまで選択）

全体では「生活の安定」が71.4%で最も多く、次いで「お金が稼げる」の53.5%、「自己成長」の50.3%という結果であった。昨年との比較では、「生活の安定」が0.5ポイント増加し、「お金が稼げる」が6.2ポイント増加している。

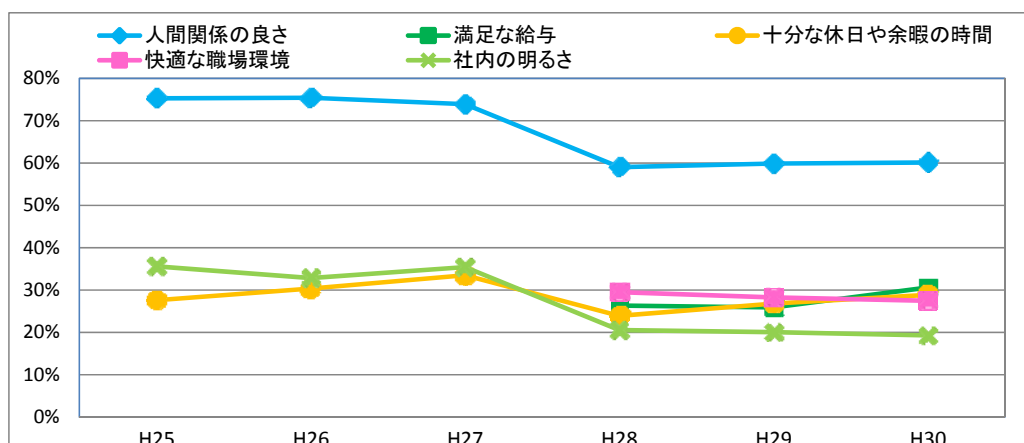


【コメント】

「自己成長」や「やりがい」が減少傾向にある一方、「お金が稼げる」が毎年増加しており、現実の生活を重視する面がうかがわれる。

6. あなたが会社に求めるものは何ですか（2つまで選択）

全体では「人間関係の良さ」が60.1%で最も多く、次いで「満足な給与」の30.6%、「十分な休日や余暇の時間」の28.8%、「快適な職場環境」の27.5%という結果であった。

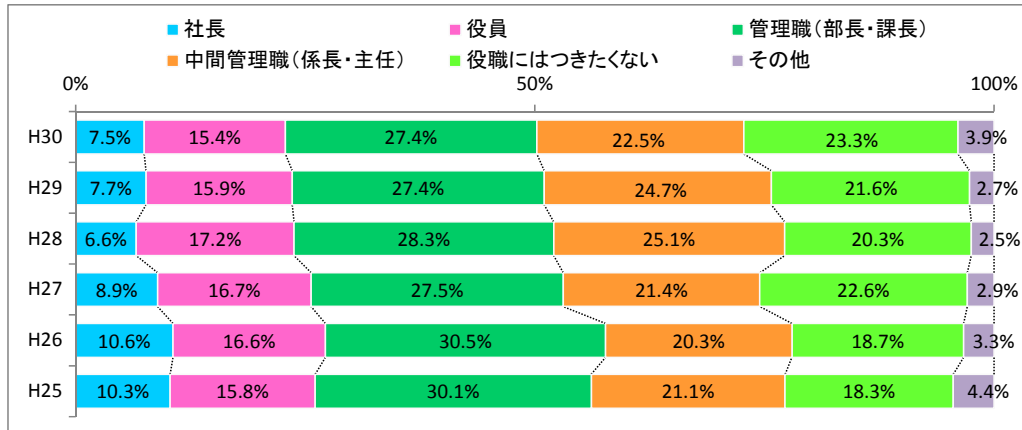


【コメント】

昨年と比較すると「満足な給与」の4.7ポイントの増加、「十分な休日や余暇の時間」の2.0ポイント増加が目立っている。雇用情勢の影響か、給与も休日も多い方がよいとの、やや贅沢な一面もみられる。

7. 将来、どのポジションに就きたいですか（1つ選択）

全体では「管理職（部長・課長）」が 27.4%で最も多く、次いで「役職にはつきたくない」の 23.3%、「中間管理職（係長・主任）」の 22.5%という結果であった。昨年との比較では、「社長」、「役員」、「中間管理職」が減少し、「役職にはつきたくない」が増加した。

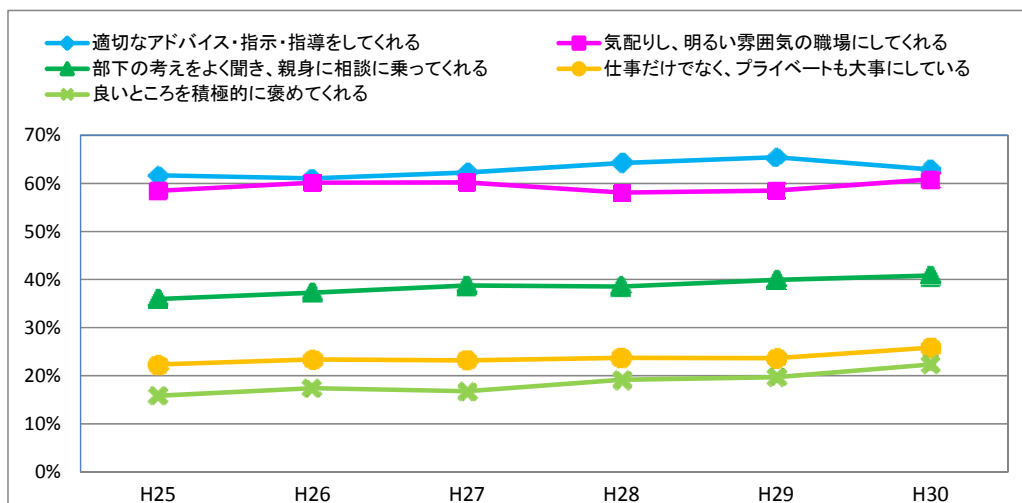


【コメント】

将来のポジションとして管理職以上を希望する割合は、全体では 50.3%と、4年連続で減少している。「役職にはつきたくない」との回答は過去最高となっており、出世にはそれほどこだわりを持たない傾向が続いている。

8. あなたにとって理想の上司に近いものはどれですか（3つまで選択）

全体では「適切なアドバイス・指示・指導をしてくれる」が 62.9%で最も多く、次いで「気配りし、明るい雰囲気職場にしてくれる」の 60.8%、「部下の考えをよく聞き、親身に相談に乗ってくれる」の 40.8%という結果であった。昨年との比較では、「適切なアドバイス・指示・指導をしてくれる」の 2.5ポイントの減少、「気配りし、明るい雰囲気職場にしてくれる」の 2.3ポイントの増加が目立っている。

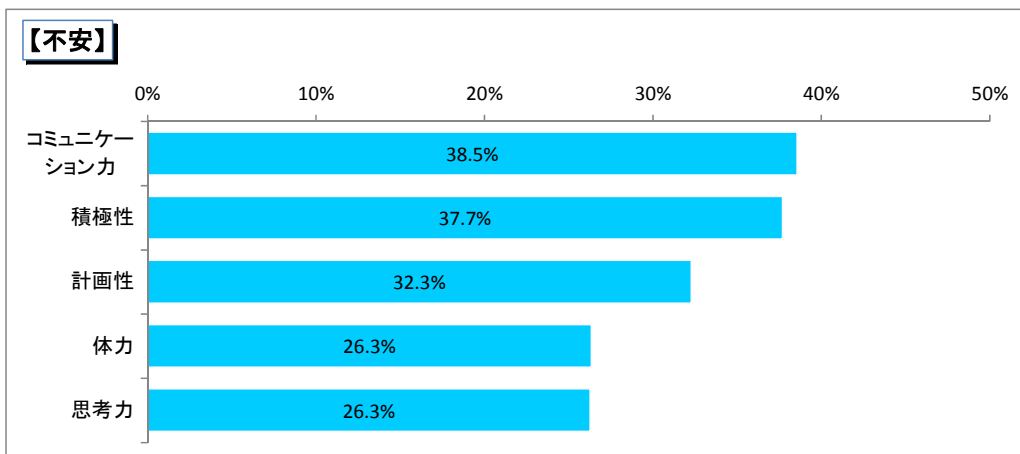
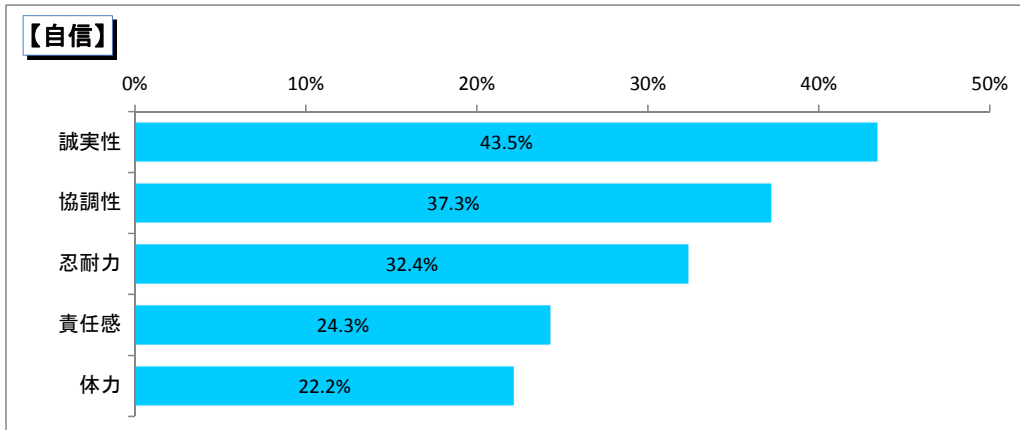


【コメント】

知識やスキル、コミュニケーション能力不足を自覚しており、きめ細かな指導、気配りのできる上司を求める傾向が続いている。

9. 今、あなたにとって自信があること、また不安なことは何ですか（それぞれ3つまで選択）

全体では、自信があることは「誠実性」が43.5%で最も多く、次いで「協調性」の37.3%、「忍耐力」の32.4%という結果であった。不安なことは「コミュニケーション力」が38.5%で最も多く、次いで「積極性」の37.7%、「計画性」の32.3%という結果であった。

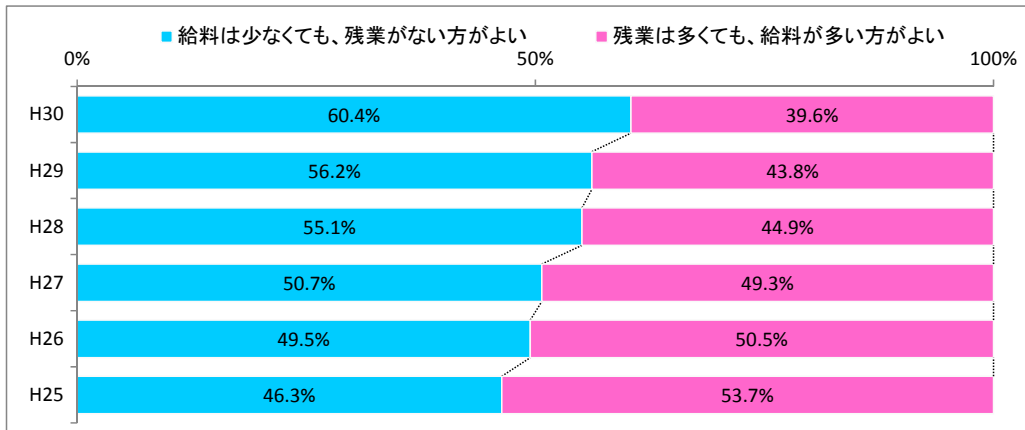


【コメント】

項目ごとに「自信」－「不安」を計算すると、プラス幅が大きいのは「誠実性」の39.9%、「協調性」の27.6%、「忍耐力」の16.0%、一方マイナス幅が大きいのは「積極性」の▲23.3%、「計画性」の▲22.2%、「コミュニケーション力」の▲17.2%であった。他の人と共同で物事に取り組むのは得意な反面、自ら物事を合理的に考え、進んで取り組むのは苦手なことがうかがわれる。

10. 給料と残業に対するあなたの考え方はどちらですか（1つ選択）

全体では「給料は少なくとも、残業がない方がよい」が60.4%、「残業は多くても、給料が多い方がよい」が39.6%であった。すべての最終学歴で「給料は少なくとも、残業がない方がよい」との回答のほうが多く、大学院卒、大学卒、短大卒、専門学校卒、高校卒それぞれ、57.1%、65.5%、61.6%、54.7%、51.3%であった。「給料は少なくとも、残業がない方がよい」が昨年より4.2ポイント増加し過去最高を更新。

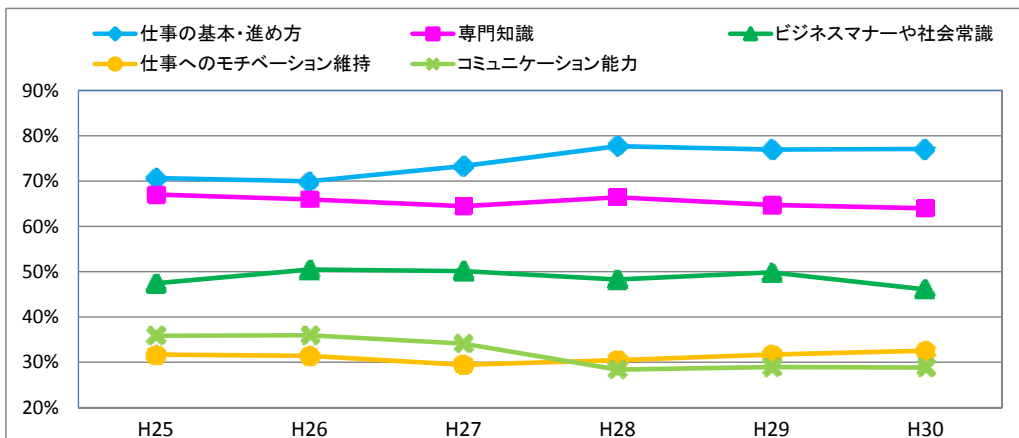


【コメント】

毎年「給料は少なくとも、残業がない方がよい」が過去最高を更新しており、ワーク・ライフ・バランスを重視する傾向が強まっている。

11. 入社後、指導・教育してもらいたいことは何ですか（3つまで選択）

全体では「仕事の基本・進め方」が77.1%で最も多く、次いで「専門知識」の64.0%、「ビジネスマナーや社会常識」の46.1%という結果であった。1位、2位は7年連続で「仕事の基本・進め方」、「専門知識」であった。

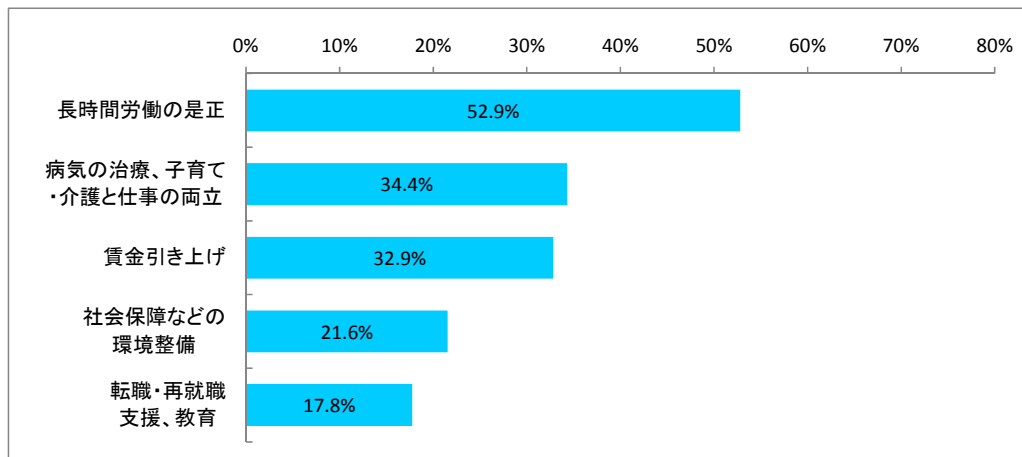


【コメント】

「仕事の基本・進め方」、「専門知識」、「ビジネスマナーや社会常識」が上位を占めており、自分の未熟さを認識し、不安を感じていることがうかがわれる。

12. 働き方改革の中で、あなたが重要と思うテーマはどれですか（2つまで選択）

全体では「長時間労働の是正」が52.9%で最も多く、次いで「病気の治療、子育て・介護と仕事の両立」の34.4%、「賃金引き上げ」の32.9%という結果であった。男女とも「長時間労働の是正」との回答が最も多く、次いで男性は「賃金引き上げ」、女性は「病気の治療、子育て・介護と仕事の両立」という結果であった。



【コメント】

「長時間労働の是正」が男性53.7%、女性51.9%でともに最も多かった。次いで男性は「賃金引き上げ」の35.6%という結果に対して、女性は「病気の治療、子育て・介護と仕事の両立」の47.8%という結果であった。昨年に続き約半分の女性が「病気の治療、子育て・介護と仕事の両立」が重要と考えており、女性活躍を後押しするためには、会社側の十分な理解と柔軟な制度設計などの対応が必要ではないかと思われる。

<最後に>

今回のアンケート結果から、新入社員は真面目で我慢強く他の人と共同で物事に取り組むことには自信を持っていますが、自ら物事を合理的に考え、進んで取り組んでいくことは苦手であることが分かります。苦手意識を反映し、上司に対してはきめ細かな指導や気配りを望んでいます。

給料と残業に対する考え方では「給料は少なくても、残業がない方がよい」と答えた人が6年連続で増加し、「ワーク・ライフ・バランス」を重視する傾向がますます強まっています。一方で、会社に求めるものとして、「十分な休日や余暇の時間」とともに「満足な給与」の増加が目立っており、給与面への関心の高まりも感じられます。

雇用情勢の好転を反映して、「定年まで同じ会社で働きたい」が過去最低となる一方、「自分に向かなければ転職したい」が過去最高となりました。人手不足が深刻となっている昨今、せっかく採用した新入社員の定着のためには、新入社員の考え、得手、不得手を理解したうえでの指導も必要ではないでしょうか。

政府が推進する「働き方改革」に関し、女性の二人に一人は「病気の治療、子育て・介護と仕事の両立」が重要と考えているとの結果がでました。少子高齢化が進むなか、女性活躍を後押しするためには、会社側の十分な理解と柔軟な制度設計が必要ではないでしょうか。

最後に、本調査結果が、新入社員の育成の一助となれば幸いです。

—ご利用に際して—

- ◇ 本資料は、アンケートに基づき作成しましたが、当社はその正確性を保証するものではありません。
- ◇ 本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- ◇ 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願いいたします。
- ◇ 本資料は、著作権法に基づき保護されています。引用する際は、必ず出所：NCB リサーチ&コンサルティングと明記してください。
- ◇ 本資料の全文または一部を転載・複製する際は当社の許諾が必要です。